

魚津で暮らす女性の
ライフスタイルmook

ウオヅ と ワタシ



2019
Spring

5

第5号



魚津で暮らすということ。
女性であるということ。
やりたいこと。
夢。
誰かと話すことで気づくことがある。

Love! Uozu.



はじめての 釣り

自分で釣って
さばいて
食べるたのしさ



魚津は市名に魚という文字が入っているだけあって海や川で釣れる魚の種類や量が豊富。その魚たちを求めて、県内外からたくさん釣りが訪れます。これからの季節はベストシーズン。釣り初心者の方、※SODOMENバレーが女性でもカンタンに始められるオススメの海釣りを提案。魚津らしい休日の過ごし方として参考にどうぞ！

A BEGINNER'S GUIDE TO ANJING IN UZU

STEP
1

用意
しよう

しよう



帽子
◎熱中症と日焼けを防ぐ

エサ
◎アミエビを使用
釣具店では冷凍で
売っているので
海水に浸すなどで
とくす

バケツ or クーラーBOX
◎新鮮に持ち帰りたいなら
クーラーBOXで
保冷バッグでも代用可
保冷剤と氷を入れておこう

竿、リール、糸、仕掛け、
おもり付きマキエカゴ
◎セット竿がおすすめ

ライフジャケット
◎もしもの時のために
あると安心

あったらいいかも…

タオル
ウェットティッシュ
ハサミ
ビニール袋

◎汚れたくない人は…

トンダ
軍手などの手袋
ブライヤー
(魚からハリをはずす道具)

ビギナー向け

釣り場を釣り好き10人に
聞きました

POINT ◎駐車場が近い ◎トイレがある ◎足場が安定している

今回の撮影場所

釣り場
BEST 3

BEST 1 魚津南港(補助港)

BEST 2 経田漁港

BEST 3 おさかなランド

※SODOMEN
今回のMISSION

サビキ釣り[®]で小アジを
釣っておいしくいただく!

※釣りが初めての方におすすめ。
防波堤から気軽に楽しめます。
サビキとは疑似餌バリエーションが
豊富なもの。アジは5~11月
頃まで釣れます。



釣り指導:1さん

N
4

片貝川

2 ●公衆トイレ

●公衆トイレ

◎ありもドーム

◎海の駅 魚気楼(トイレあり)
◎おさかなランド

3 ●公衆トイレ
◎南防神社

万灯台

海川

1 ●公衆トイレ

小アジの唐揚げ

【材料】小アジ、片栗粉、揚げ油、塩



1 下ごしらえ

エラの下あたりをつまむようにつかみ、エラと内臓を一緒にとりのぞく。



2

流水できれいに洗い、キッチンペーパーで水気をふき取る。



3

ビニール袋に片栗粉と2を入れ、袋の中に空気を少し入れて口を閉じ、ふりながら全体にまぶす。



4

小さめのフライパンで油を熱し、3を入れてゆっくり揚げる(中温)。



5

泡が小さくなってきたら、フライパンから取り出しバットにあげる。熱いうちに、塩をふる。



アレンジレシピ

基本の「小アジの唐揚げ」をバージョンアップ!



小アジの南蛮漬け

しょうゆ、酢、砂糖を同量入れた漬け汁に、千切りにしたピーマン、人参、玉ねぎと、揚げた小アジをつける。30分ほど味をなじませる。



オーロラソースあえ

揚げた小アジに、マヨネーズとケチャップを混ぜたソースを和える。



おろしポン酢のせ

揚げた小アジの上に、大根おろしと、小口切りにした小ねぎをのせ、ポン酢をかける。

STEP 3

食べべてみよう

STEP 2

釣ってみよう

START!

1

今回使ったエサは、手が汚れにくいパウチ入り。しかもブルーベリーの香り!



アミエビをマキエカゴに詰める

2



1を静かに海中へ沈め、竿を上下に動かす
アミエビを水中に出しアタリ待つ

3



アタリが来なければ竿を動かす

4



2〜3回繰り返すとエサがなくなるので再度エサをセット

5



アタリがきたら竿を立ててリールを巻き始める

6



はずす時は針先に気をつけよう

フライヤーだと外しやすい

FINISH!!



キンキンに冷やして新鮮な状態でお持ち帰り!

魚津ではキス、カレイなども釣れるので挑戦してみよう!



ハンドメイドとの 出会い

まさか自分がアクセサリ作家として活動するとは思ってもみなかった、という窪田さん。高校卒業後、石川県内の衣料品店で働き、バイヤーまで務めた。その間、京都や神戸など他県への転勤も経験。ファッションが暮らしの中心にあったが、ハンドメイドへの世界はまだ遠いものだった。

窪田さんがつくるアクセサリは、レジンという素材と、金沢から仕入れた金箔や銀箔、そしてドライフラワーを組み合わせた、華やかで可愛いもの。ピアスやイヤリング、アイフォンケースを中心とした、手のひらに乗るサイズのアクセサリを作っている。

の通り沿いに、レースやビーズ、金具などのハンドメイド素材を壁一面にずらりと並べたお店を見つけた。そこは、パーツを選んでその場で組み合わせてアクセサリを作るオーダーメイドシステムで、窪田さんは客としてかなりハマったのだそう。しかし、この時点ではまだ自らやってみようとは思わず、時間ができたらやりたいて考えていた程度だった。

▼魚津市内にある実店舗。窪田さんの「好き」が詰まったアンティーク家具や装飾品が並ぶ



の世界へと足を踏み入れた窪田さんだが、当初からただの趣味で終わらせるつもりはなく、販売も視野に入っていたという。積極的にオンラインショップへ製作したアクセサリを出品。販売を始めたばかりの頃は、作品に対する自信もなかったが、はじめて売れた瞬間、心の底か

夫の故郷である 魚津へ

ら「やった！」と嬉しさがこみ上げてきたそう。それから数ヶ月後、フォローワー数の多いインスタグラマーが窪田さんのアクセサリを紹介。そこから一気に知名度が上がり、注文が殺到。委託販売の依頼なども舞い込むようになり、窪田さんのアクセサリは多くの人の目にふれることになった。



▲素材の色や雰囲気を活かしたデザインは、多くのファンの心をつかんでいる



Honoka
Kubota
handmade jewelry
designer

オンラインでもイベントでも
売切れ続出のアクセサリ作家。
お客様とつながるきっかけは
インスタグラム。

ハンドメイド・アクセサリ「karuki」の作家として魚津市内で活動している、窪田穂乃香さん。繊細で可愛い「karuki」は、今やオンラインショップなどネット上で話題のアクセサリ。販売の告知をしてから一瞬で100点以上も売れるほどの人気。窪田さんの作るアクセサリは、注文してから製作、手元に届くまで一週間ほど。世界に一つだけのアクセサリとして、製作から包装までひとつひとつ心をこめ、丁寧に手がけられている。

アクセサリブランド 「karuki」として



くばた ほのか
窪田 穂乃香さん

1992年生まれ
石川県出身



魚津在住の女性に
聞きました

わたしたち
ウオズの
ここが好きです

in
ミモザ祭り
魚津市・SACHI1019



魚津に住みはじめたきっかけは、夫との出会いから。「結婚するなら、この人しかいない」と感じた相手が魚津出身の人だったんです。つき合ってから魚津との関わりが深まっていき、結婚を機に移り住むことに。それまでは魚津に縁がなく知り合いがまったくなかったため、結婚をして永住することに、本当は抵抗があった。当初は、孤独も感じていた。だが、暮らしていく中で少



▲窪田さんの手で、丁寧に生み出されるアクセサリたち

▼作家活動を応援してくれている夫と。仲良し夫婦



しずつ人とのつながりが増え、ハンドメイド系のイベントにも参加することで、アクセサリについて語ることができるようになりました。今は夫も、家族も、活動を支えてくれている。窪田さんは「私は頑固な方で、やると決めたらやるところがあつて。だから、夫や周りのみなさんからの応援がとっても嬉しい」と、感謝の気持ちをにじませていた。

「魚津に暮らしはじめて日が浅いけれど、夫がいろいろな所へ連れて行ってくれるのが楽しい」と満足そうに語る窪田さん。夫婦で度々、老舗の飲食店やお菓子屋さん巡りをしている。また、魚津水族館もお気に入り。普段は室内ですと製作活動をしていることもあり、プライベートルームでは息抜きで外に出かけてることが多い。「あまり無理して作業をすることはしないし、気分次第で外出もできるので、本当にありがたいです」。

新たにお店をオープン!

2019年の3月、夫の実家である魚津市内の「芋かいもちの源七」

本店の脇に、初の実店舗をオープン。お店をもつことを決めたのは、自分の世界をつくりたかったから。「これまではベッドルームの隅で製作していたこともあって、作業に没頭できる空間がもて嬉しい」と語った。大工である父や夫、知り合いに手伝ってもらいながら作り上げたという店内は、空間づくりにもこだわりのあるアンティークショップ好きな窪田さんが熱心に探して手に入れたという、レトロな家具や装飾品などが並べられ、窪田さんらしい世界観が表現されている。今後はこの店舗で、他のハンドメイド作家とワークショップを開催したり、ハンドメイド作家以外にもいろいろな人とコラボしたい、と意欲を見せる窪田さん。どんなイベントが開催されるか楽しみだ。

窪田さんへのお問い合わせ

ハンドメイドアクセサリ作家

karuki

〒937-0042
富山県魚津市六郎丸4531-1
[E-MAIL] skb.hnk@gmail.com
[Instagram] karuki_accessories



「魚津のいいところ・いいものを伝えたい」。「自慢のライフスタイルがある」。
「お気に入りのお店を紹介したい」。
「魚津での暮らしを満喫している女性を紹介したい」。
魚津のとおきおきの情報を、私たち ※SODO に教えてください。

※SODOとは？ *What's Kome sodo*

いま、若い女性の人口減少への対応が魚津市の大きな課題となっています。そんな中、2018年10月に新しいプロジェクト・チームを結成。その名は「※SODO(ソド)」。魚津は米騒動発祥の地。生活を守りたいと奮起し、行動を起こした女性たちの歴史が刻まれたこの地で、私たちにもできることをやってみようとの思いから発起し、活動しています。
魚津で暮らすことを決めた私たち。魚津で活躍している女性やいろいろなコトを知るたび、魚津をもっと魚津を好きになっていきます。私たちはこれから、少しずつですが自分たちでできることを探して、この想いを発信していきます。

「ウオワタ」バックナンバー あります。

魚津市役所、図書館、魚津駅などに
設置しております。郵送もいたします。
設置場所も募集中！



ホームページできました！

※SODOメンバーについての情報はこちらで♪

<https://komesodo.com>



インスタ発信中！

「ウオワタ映え」写真、マメに更新されています

kome_sodo



お問い合わせ先

※SODO事務局

魚津市役所2F 地域協働課 女性活躍社会推進室

TEL 0765-23-1131

[E-MAIL] chiiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

今回の「ウオワタ」でひとこと。

今回の巻頭は2019年3月末に閉校となった「魚津市立佐々木小学校」。
撮影日はお別れの1ヶ月前のこと。
メンバーの中には卒業生もいて、放課後、子どもたちがいない
静かな校舎を歩きながら、平気で通っていた頃の思い出を
語ってくれました。(さようなら、ありがとう！)
巻頭紙は天神山球場からの1枚。思わず深呼吸～

ウオヅとワタシ 第5号

発行日 2019年4月20日

発行 魚津市 地域協働課 女性活躍社会推進室
〒937-8555 富山県魚津市祝遊堂1-10-1
TEL 0765-23-1131
FAX 0765-23-1051
E-MAIL chiiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

企画・編集 ※SODO

冊子デザイン ホリデザイン制作室

写真 鬼塚仁康 [tete studio works]

スタイリスト [特集] 高森真美子 [& sydan]

フードコーディネーター [特集] 大島 恵 [ココマカロン]

モデル [表紙・特集] ※SODO

協力 魚津の釣り好きさんたち

PROJECT

※SODO ミッション・レポート

魚津市 米騒動100年記念事業 「とやまで働く女性たちのトークイベント」開催。

2018.7.22 SUN 15:30～17:30 魚津ホテルグランミラージュ 1F「レストラン ミラヴェール」



米騒動100年記念事業として、お米に関わる仕事をしている女性たちによるトークイベントを開催。

魚津市梶島で「ひえばた園」を夫と共に経営している梶苗 史絵さんと

小麦を一切使わないグルテンフリー ベーカリーカフェ「KARVAN(カールヴァーン)」(富山市)
店主の金坂 佳子さんをゲストに迎え、仕事やプライベート、家族のことについてお話しいただきました。

イベントの後半は、ひえばた園のもち米を使った餅つき体験ののち、カフェタイム。
つくたてのお餅とKARVANの白いコーヒーを味わいながら、お客様どうしの話も弾んでいました。
ご参加いただき、ありがとうございました。

魚津で暮らす女性を増やそう！

この冊子を、お子様やご友人など 女性におすすめしていただきませんか？

魚津市は近年、若者、特に20・30代の女性の人口が減ってきています。
この冊子では、魚津で暮らす女性に関する「ヒト」「モノ」「コト」を取り上げています。

Uターンを考えている方。魚津への移住を考えている方。
進学や就職で魚津を離れるかどうか迷っている方、など。

この冊子を通じて、より多くの方々に
魚津で生活する魅力を感じてほしいと願っております。

